



世界と向き合い 未来の創り手として 輝き続ける人

## 第2期さいたま市教育振興基本計画

---

～人生100年時代を豊かに生きる「未来を拓くさいたま教育」の推進～

### <さいたま市教育アクションプラン>

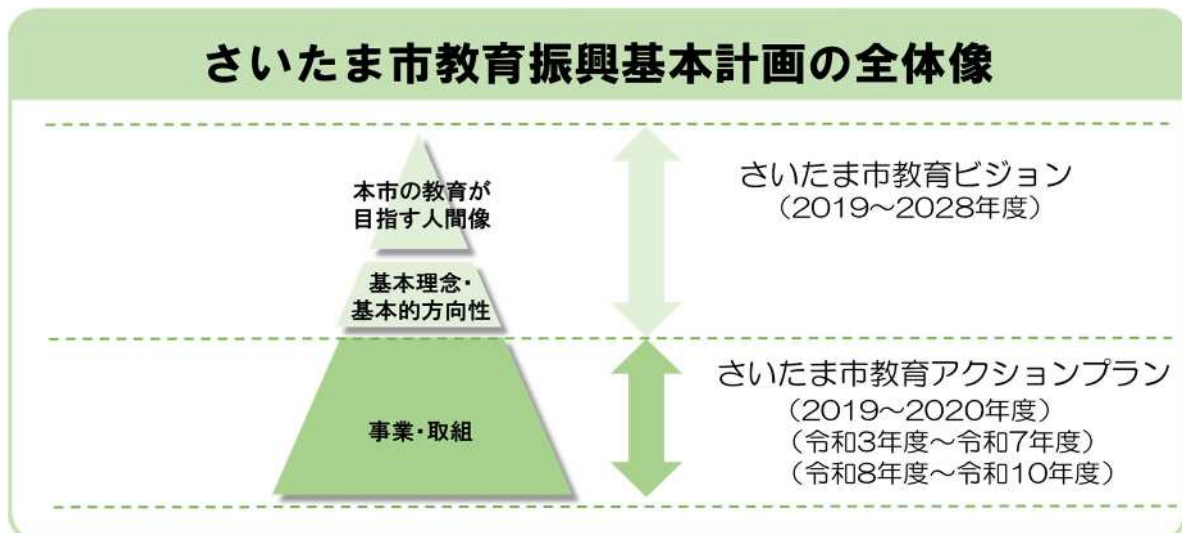
令和8年度～令和10年度

令和8年3月

さいたま市教育委員会

# 目次

1	はじめに	1
2	アクションプランの体系化	1
3	総括と今後の重点	3
4	基本的方向性、施策展開、事業・取組	4
5	個別の事業・取組	7
	<b>基本的方向性1</b>	
	12年間の学びの連続性を生かした「真の学力」の育成	8
	<b>基本的方向性2</b>	
	グローバル社会で活躍できる豊かな人間性と健やかな体の育成	12
	<b>基本的方向性3</b>	
	人生100年時代を輝き続ける力の育成	18
	<b>基本的方向性4</b>	
	スクール・コミュニティによる連携・協働の充実	22
	<b>基本的方向性5</b>	
	「未来を拓くさいたま教育」推進のための基盤整備	25
6	資料	30



## 1 はじめに

令和3年度から令和7年度を計画期間とした「第2期さいたま市教育振興基本計画〈さいたま市教育アクションプラン〉」は、新型コロナウイルス感染症の影響、デジタル技術の急速な進展、社会のグローバル化・多様化など、教育を取り巻く環境が大きく揺れ動く中で推進されてきました。

本市は、「人生100年時代を豊かに生きる『未来を拓くさいたま教育』の推進」を基本理念とし、5つの基本的方向性のもと、多様な教育施策を着実に積み重ねてきました。

令和7年度で現行のアクションプランが終了することを受け、これまでの成果と課題を丁寧に検証し、令和8年度から令和10年度までを対象とする新たなアクションプランを策定しました。

本プランは、「第2期さいたま市教育振興基本計画（2019年度～2028年度）」を継承しつつ、国の「第4期教育振興基本計画（令和5年度～令和9年度）」の方向性を踏まえ、これまでの取組を発展させて教育の新たな段階へと進むための枠組みを示すものです。

本市が目指す人間像である「世界と向き合い、未来の創り手として輝き続ける人」を実現するためには、子ども一人ひとりが自ら学び、考え、主体的に行動する力=Agency（エージェンシー）をはぐくむことが不可欠です。

私たちは、日本一の教育都市で日本一幸せな子どもをはぐくむ教育を推進するという強い決意のもと、学校、家庭、地域及び行政が連携し、誰一人取り残さない学びの実現に向けて、これからの3年間を力強く歩んでまいります。

## 2 アクションプランの体系化

本プランは、「Well-being（幸せ）を保障する教育」の実現を目指し、さいたま市がこれまで大切にしてきた「未来を拓くさいたま教育」の方向性と有機的に結びつけて構築しています。また、国際社会が共有する持続可能な開発目標（SDGs）の理念とも通じつつ、デジタル学習基盤を中核に据え、デジタルとリアルが調和した新たな学びの創造と、学校、家庭、地域及び行政が協働し、「誰一人取り残さない」という価値を教育施策の基盤として位置づけています。

さらに、本プランの中心に据えるAgency（エージェンシー）は、Grit（やり抜く力）・Global（国際性）・Growth（成長力）という3つのGを通してはぐくまれ、自らの人生と社会のWell-being（幸せ）を創造するための原動力となるものです。

この考え方を基盤に、次の通りアクションプランを体系化します。

# 「Well-being（幸せ）を保障する教育」の実現を目指して

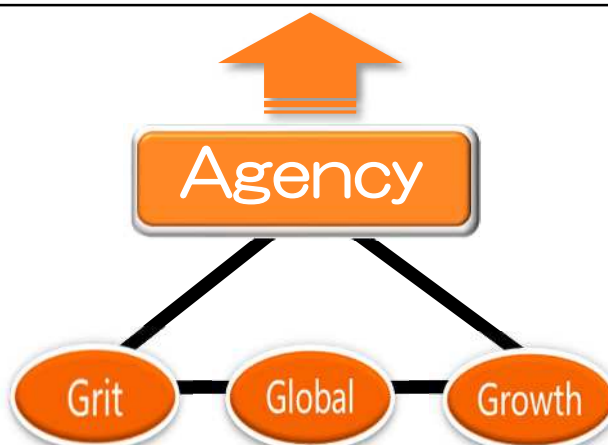
エージェンシーを発揮し、自らの人生と社会の  
Well-being（幸せ）を創造するために

【さいたま市の教育が目指す人間像】  
世界と向き合い 未来の創り手として 輝き続ける人

【基本理念】  
人生100年時代を豊かに生きる「未来を拓くさいたま教育」の推進

## 【基本的方向性】

- ① 12年間の学びの連続性を生かした「真の学力」の育成
- ② グローバル社会で活躍できる豊かな人間性と健やかな体の育成
- ③ 人生100年時代を輝き続ける力の育成
- ④ スクール・コミュニティによる連携・協働の充実
- ⑤ 「未来を拓くさいたま教育」推進のための基盤整備



※ Agencyは、Grit・Global・Growthという3つのGを通してはぐくまれるものです。

日本一の教育都市で、日本一幸せな子どもをはぐくむために  
「未来を拓くさいたま教育」を推進する「PLAN THE NEXT 3つのGで日本一の教育都市へ」

学校、家庭、地域及び行政  
の連携・協働

持続可能な開発目標  
(SDGs)

誰一人取り残さない学びの実現

デジタル学習基盤の活用

### 3 総括と今後の重点

令和3年度から令和7年度までを期間とした「第2期さいたま市教育振興基本計画<さいたま市教育アクションプラン>」における総括を踏まえ、次の通り今後3年間（令和8年度～令和10年度）の重点を示します。

基本的方向性① 12年間の学びの連続性を生かした「真の学力」の育成

【総括】

- 教育DXを「学び方・教え方・働き方改革」の観点から推進
- スクールダッシュボードの本格運用を全市立小・中・特別支援学校で開始
- 学習状況調査のCBT化による調査問題の質及び調査の即時性の向上、学校における調査結果の更なる活用を推進
- 自然体験活動等を通じたリアルな体験活動による「非認知能力」の向上

【重点】 デジタルがリアルを支える環境を生かした探究的な学びと情報リテラシー教育を推進するとともに、AIに代替されない力や、多様な他者と協働して新たな価値を生み出す力をはぐくむ。

基本的方向性② グローバル社会で活躍できる豊かな人間性と健やかな体の育成

【総括】

- 国際交流やイングリッシュキャンプなど英語の実践量を確保
- IB整備から市内学校への成果共有の流れを定着
- オンラインによる不登校支援やSolaる一むの充実、学びの多様化学校で“学びの場の選択肢”を拡大
- いじめ問題への未然防止・早期対応を強化
- 運動習慣を科学的に支援する教育モデルを整備

【重点】 多様性の尊重や誰一人取り残さない学びを拡充し、国際的なコミュニケーション力、人権・いじめ問題への対応、データ活用による健康増進を強化し、豊かな人間性と社会的自立をはぐくむ。

基本的方向性③ 人生100年時代を輝き続ける力の育成

【総括】

- 公民館や図書館、博物館等の生涯学習関連施設の企画を横断的に展開
- DX活用により発信力・アクセス性を強化
- 学校との連携を強化し、生涯学習施設を教育基盤として整備

【重点】 デジタルを活用し、誰もがアクセスできる学びと、専門性豊かな学びの提供、人のつながりを広げる地域活動の機会を拡充し、学びを生かして社会の豊かさと幸せに寄与する生涯学習を強化する。

基本的方向性④ スクール・コミュニティによる連携・協働の充実

【総括】

- コミュニティ・スクールを全校実施後、運営の質の向上を重視
- 学校・家庭・地域・行政の協働を強化
- 学校運営協議会への子ども参画型運営をモデル校で広げ、仕組み化を推進

【重点】 学校・家庭・地域・行政が連携し、子どもが学校運営や地域づくりに参画する仕組みや、地域の見守りや防犯体制、校内外の居場所づくりを強化し、子どもを中心に据えたスクール・コミュニティを一層推進する。

基本的方向性⑤ 「未来を拓くさいたま教育」推進のための基盤整備

【総括】







- バイオニア特別選考・Step Up選考など教員採用の間口を拡大
- 中学校体育館空調の全校整備を実施
- トイレ洋式化率90%超など教育環境を改善
- 水泳授業の民間委託を拡大

【重点】 水泳授業民間委託の拡充や部活動地域展開の検証等による働き方改革の促進、質の高い教師確保と研修の深化の他、空調・トイレ整備を推進し、安心・安全で上質な教育環境を整備する。

#### 4 基本的方向性、施策展開、事業・取組

アクションプランの体系化及び総括と今後の重点を踏まえ、基本的方向性、施策展開及び事業・取組を次の通り掲げます。







##### ■基本的方向性① — 施策展開 — 事業・取組

基本的方向性①		12年間の学びの連続性を生かした「真の学力」の育成
施策展開	○他者と協働しながら新たな価値を創造していく力を育成する。	
	○夢を実現しようとする高い志を持って、可能性に挑戦する力を育成する。	
事業・取組		SDG s
1-01	カリキュラム・マネジメントの充実による質の高い、深い学びの実現	
1-02	デジタル学習基盤を活用した学びの改革	
1-03	市立高等・中等教育学校の更なる特色化・魅力化の推進	
1-04	館岩少年自然の家を活動拠点とした自然体験活動	
1-05	学習状況調査結果を基にした学力向上策の推進	
1-06	子ども読書活動推進事業	




##### ■基本的方向性② — 施策展開 — 事業・取組

基本的方向性②		グローバル社会で活躍できる豊かな人間性と健やかな体の育成
施策展開	○コミュニケーションを通じて人間関係を築く力、豊かな情操や規範意識、ものごとを最後までやり抜く力、社会的・職業的自立に向けた能力・態度等を育成する。	
	○生涯にわたってたくましく生きるために必要な健康や体力を育成する。	
事業・取組		SDG s
2-01	グローバル・スタディ及び国際教育の推進	
2-02	誰一人取り残されない多様な支援の充実	
2-03	特別支援教育の推進	
2-04	子どもを支える生徒指導の推進	
2-05	人権教育の推進	
2-06	道徳教育の推進	
2-07	義務教育9年間を見通したキャリア教育の推進	
2-08	主体的に社会の形成に参画する児童生徒の育成	
2-09	子どもによる科学的な視点を生かした体力向上の推進	
2-10	学校・家庭・地域が連携した魅力ある食育の充実	








■基本的方向性③ — 施策展開 — 事業・取組

基本的方向性③		人生100年時代を輝き続ける力の育成
施策展開	○生きがいを持ち、生涯にわたって質の高い学びを続けられる環境を整備する。 ○人生を豊かに生きるために、学んだことを生かして活躍できる環境を整備する。	
事業・取組		SDGs
3-01	子どもと大人の多様な学びの推進	
3-02	生涯にわたる学びを支援する図書館事業の推進	
3-03	博物館・美術館・科学館の専門性を生かした学校との連携と特色のある生涯学習機会の充実	
3-04	生涯学習人材バンクの推進	
3-05	地域コミュニティを活かした学びのきっかけづくり	
3-06	次世代に向けた歴史文化資源の保存・継承・活用	

■基本的方向性④ — 施策展開 — 事業・取組

基本的方向性④		スクール・コミュニティによる連携・協働の充実
施策展開	○学校・家庭・地域・行政の連携・協働体制を構築し、地域の教育力の向上を図るとともに、地域に信頼される学校づくりを推進する。 ○地域の多様な教育資源を活用し、地域コミュニティの活性化と、地域発展の担い手となる人材を育成する。	
事業・取組		SDGs
4-01	コミュニティ・スクールとスクールサポートネットワークの一体的推進	
4-02	チャレンジスクールの充実	
4-03	子どもを見守る学校安全ネットワークの推進	

■基本的方向性⑤ — 施策展開 — 事業・取組

基本的方向性⑤		「未来を拓くさいたま教育」推進のための基盤整備
施策展開	<p>○新しい時代の教育に向けた学校の指導体制を構築する。</p> <p>○安全・安心で質の高い教育環境を整備するとともに、学校安全体制を推進する。</p>	
事業・取組		SDGs
5-01	教職員の資質能力の向上	
5-02	人づくり、人材確保の推進	
5-03	将来にわたり生徒がスポーツ・文化芸術活動に継続して親しむことができる環境の整備	
5-04	学校における働き方改革の推進	
5-05	より良い教育の実現を目指す教育環境整備の推進	
5-06	学校安全体制の充実	
5-07	小学校・中学校への空調設備の新規整備・更新及び学校トイレの洋式化等の推進	
5-08	学校用務業務等の民間力活用の推進	-

## 5 個別の事業・取組

このページ以降は、基本的方向性及び施策展開を実現するための、個別の事業・取組を掲げています。

これらの事業・取組の選定に当たっては、基本的方向性及び施策展開への貢献がより期待できる事業・取組を第一とし、「さいたま市総合振興計画」に掲げる事業のほか、教育行政方針で掲げた事業等について記載をしています。

なお、各事業・取組については、以下の例のように、事業目的・事業内容とともに、目標指標、各年度目標、計画期間最終目標を示しました。

計画の推進に当たっては、社会経済情勢や市民ニーズの変化に的確に対応しながら、成果指標の設定や定期的な検証を通して、施策の確実な実施と改善に努めてまいります。

### 【例】

1-01 カリキュラム・マネジメントの充実による質の高い、深い学びの実現		【所管課】 教育課程指導課	【総振事業コード】 04-1-1-01		
事業目的	義務教育9年制を併置したカリキュラム・マネジメントの充実によって、教育活動の質の向上を図り、自ら考え、他者と協働し、課題解決に向けて行動することができる児童生徒を育成します。				
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校教育に関わる、体験活動を多様な取組を教育課程の中心に推進、組織的かつ計画的に実施することで教育の質の向上につなげるため、教科等横断的な授業づくり、教育効果の検証と改善、地域との連携等の充実を図ります。</li> <li>随所随所、中学校の意向研修会や相互授業観察等を充実させることで、各学校が児童生徒の実態や地域の実情を踏まえ、義務教育9年制の系統性を意識した教育課程を編成・実施します。</li> <li>各学校が、教科横断や探究の視点をもって、教育活動を繰り返し評価・改善できるよう、学校訪問や研修会等を通じた総合的な支援を行います。</li> <li>児童生徒の「学び力」の振り返りと教員の「教え力」の振り返りとの往還による授業改善システムを推進することで、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた教員の授業力向上を図ります。</li> </ul>				
目標指標	実績	各年度目標			計画期間 最終目標
		令和8年度	令和9年度	令和10年度	
1) 主体的・対話的で深い学びが実現できた児童生徒の割合	95.1% (令和7年度)	90%	90%	90%	令和10年度まで90%を維持
2) 教科等横断や探究の視点をもって学習できた児童生徒の割合	88.4% (令和7年度)	90%	90%	90%	令和10年度まで90%を維持

総合振興計画基本計画実施計画に記載の事業・取組は、【総振事業コード】を示しています。

事業の目的及び内容について示しています。

現状の実績、各年度の目標及び基本計画の最終年度（令和10年度）の目標を示しています。

各事業・取組における目標指標を示しています。

## 基本的方向性 1

### 1 2年間の学びの連続性を生かした 「真の学力」の育成

#### 施策展開

- 他者と協働しながら新たな価値を創造していく力を育成する。
- 夢を実現しようとする高い志を持って、可能性に挑戦する力を育成する。

1-01 カリキュラム・マネジメントの充実による質の高い、深い学びの実現

1-02 デジタル学習基盤を活用した学びの改革

1-03 市立高等・中等教育学校の更なる特色化・魅力化の推進

1-04 館岩少年自然の家を活動拠点とした自然体験活動

1-05 学習状況調査結果を基にした学力向上策の推進

1-06 子ども読書活動推進事業

1-01 カリキュラム・マネジメントの充実による質の高い、深い学びの実現		【所管課】 教育課程指導課	【総振事業コード】04-1-1-01			
事業目的	義務教育9年間で俯瞰したカリキュラム・マネジメントの充実によって、教育活動の質の向上を図り、自ら考え、他者と協働し、課題解決に向けて行動することができる児童生徒を育成します。					
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校教育に関わる、体験活動を含む様々な取組を教育課程の中心に据え、組織的かつ計画的に実施することで教育の質の向上につなげるため、教科等横断的な授業づくり、教育効果の検証と改善、地域との連携等の充実を図ります。</li> <li>関係小・中学校の合同研修会や相互授業観察等を充実させることで、各学校が児童生徒の実態や地域の実情を踏まえ、義務教育9年間の系統性を意識した教育課程を編成・実施します。</li> <li>各学校が、教科横断や探究の視点をもって、教育活動を繰り返し評価・改善できるよう、学校訪問や研修会等を通じた総合的な支援を行います。</li> <li>児童生徒の「学び方」の振り返りと教員の「教え方」の振り返りとの往還による授業改善システムを推進することで、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた教員の授業力向上を図ります。</li> </ul>					
目標指標		実績	各年度目標			計画期間 最終目標
			令和8年度	令和9年度	令和10年度	
(1)	主体的・対話的で深い学びが実現できた児童生徒の割合	95.1% (令和7年度)	90%	90%	90%	令和10年度まで90%を維持
(2)	教科等横断や探究の視点をもって学習できた児童生徒の割合	88.4% (令和7年度)	90%	90%	90%	令和10年度まで90%を維持

1-02 デジタル学習基盤を活用した学びの改革		【所管課】 教育研究所	【総振事業コード】04-1-1-02			
事業目的	タブレット等のデジタル学習基盤を効果的に活用した、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図ることで、子どもたちが自律的・探究的に学びを進めることができるようにします。					
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>タブレットや高速大容量ネットワーク等のデジタル学習基盤を効果的に活用することで、子どもたちがクラウド上で自らの学びの履歴を活用して、自分に合った教材、学習方法、学習計画などを個別最適に調整し、協働的な活動を通して学びを深めるなど、子どもたちの「学び方改革」を推進します。</li> <li>子どもたちのよりよい学びにつながるデジタル学習基盤の整備と、教職員への研修や先進校の取組の横展開等を推進します。</li> <li>全ての教科等で、子どもたちが情報を主体的に集め、まとめたり表現したりする活動を取り入れることで、生成AIに対するリテラシーや、情報モラル・情報セキュリティを含めた情報活用能力の育成を目指します。</li> <li>デジタル学習基盤を活用しながら、子どもたちが主体的に課題を発見し、多様な他者との協働により解決する、探究的な学びを推進します。</li> <li>教職員が子どもたちと向き合う時間を創出できるように、教職員用コンピュータの更新や業務改善に資するシステムの拡充等、デジタル環境の整備を推進します。</li> <li>教職員が、様々な教育データを、子どもたち一人ひとりの状況把握や、自律的な学びの支援に生かしていくことができるように、教育データ可視化システムの活用方法について研究を行うとともに、より実効性・利便性の高いシステムとなるよう改修を進めます。</li> </ul>					
目標指標		実績	各年度目標			計画期間 最終目標
			令和8年度	令和9年度	令和10年度	
(1)	課題解決に向けて、子どもたちがICT機器を日常的に使用している学校の割合	80% (令和7年度)	80%	80%	80%	令和10年度まで80%を維持
(2)	ICTの活用により、校務に係る作業負担を軽減できたと回答した教職員の割合	88% (令和7年度)	90%	90%	90%	令和10年度まで90%を維持

1-03 市立高等・中等教育学校の更なる特色化・魅力化の推進		【所管課】 高校教育課	【総振事業コード】04-1-1-03			
事業目的	市立高等・中等教育学校を更に充実・発展し、一人ひとりが未来の創り手となる時代であっても、高い志を持ち世界で活躍する人材を育成する学校づくりを目指します。					
事業内容	<p>市立高等・中等教育学校のそれぞれのスクールミッション及びスクールポリシーに基づいた、特徴を生かした学校づくりを更に充実・発展させます。また、国際的な視野を持つ人材を育成するとともに、一人ひとりが未来の創り手となる、世界へ飛躍するグローバル人材の育成を目指します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・浦和高等学校：人間の魅力を高め、地域・世界に貢献する人材の育成と、社会に対応する柔軟性、主体的に生き抜く力、チャレンジする態度の醸成を目指し、生徒が高い知性と幅広い教養を身に付けることができるよう教育課程を編成・実施します。併せて、併設型中高一貫校の強みを生かしたきめ細かな進路指導の充実を図ります。</li> <li>・浦和南高等学校：探究的に、答えのない問いに挑戦し続ける生徒の育成を図るため、生徒個々が探究テーマをもち、年間を通して諸課題に対応する学習「総合的な探究の時間」への取組を進めます。また、小学生等と共に活動する場をつくるなど、多様な交流を通して、新たな価値を創造する人材の育成を目指します。</li> <li>・大宮北高等学校：高い志を実現するグローバルサイエンス人材の育成を目指し、SSH（スーパーサイエンスハイスクール）発展Ⅰ期の指定を目指すとともに、「人材育成重点校指定校」として、海外の高校生との交流やフィールドワークなど、海外の公共機関と協働した研究活動を拡大・深化させます。</li> <li>・大宮国際中等教育学校：探究等の特色的なカリキュラムや、グローバル化に対応した能力を育成する世界共通の教育プログラムである国際バカロレア教育の認定校として、大学・企業・NPO などと連携・協働した課題解決型学習などを中心に据え、6年間の系統的・継続的な教育を展開します。また、探究発表会等を通して、得られた成果をもとに国際バカロレアの核である探究学習への取組を更に進めていきます。</li> </ul>					
目標指標		実績	各年度目標			計画期間 最終目標
			令和8年度	令和9年度	令和10年度	
(1)	市立浦和高等学校 ・進路指導に対する生徒の満足度	88.8% (令和6年度)	80%	80%	80%	令和10年度まで80%を維持
(2)	市立浦和南高等学校 ・高校生と地域の小学生等との交流の回数	10回 (令和6年度)	11回	12回	13回	令和10年度に13回
(3)	市立大宮北高等学校 ・理数教育活動における海外交流・連携回数	18回 (令和6年度)	20回	20回	20回	令和10年度まで20回を維持
(4)	市立大宮国際中等教育学校 ・探究発表会等に参加した外部参観者アンケートによる肯定的な回答の割合	—	90%	90%	90%	令和10年度まで90%を維持

1-04 館岩少年自然の家を活動拠点とした自然体験活動		【所管課】 館岩少年自然の家	【総振事業コード】04-1-1-04			
事業目的	子どもたちの豊かな成長に向けて、自然の教室における自然体験活動をより一層推進します。					
事業内容	<p>館岩少年自然の家を活動拠点とした自然の教室を実施することを通して、子どもたちの豊かな心を育むと同時に、「非認知能力」の向上を図ります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自然の教室で実施している活動において、「他者との関わり（所属意識や連帯感等）」の向上をねらいとする活動（キャンプファイヤー、焼き板、野外炊飯、雪灯籠作り等）を実施し、調査項目「協力」の向上が見られたかの達成調査をすることで、活動プログラムの改善、開発につなげます。</li> <li>・自然の教室で実施している活動において、「個人のやり抜く力」の向上をねらいとする活動（登山、スキー活動等）を実施し、調査項目「粘り強さ」の向上が見られたかの達成調査をすることで、活動プログラムの改善、開発につなげます。</li> <li>・自然の教室を通して身に付くことが期待される「非認知能力」に係る調査を自然の教室実施前と実施後に行います。実施前の調査結果は事前に学校と共有し、自然の教室実施当日の子どもたちへの指導に生かすようにしており、実施後の調査結果は、自然の家所員の資質・能力の向上につなげます。</li> </ul>					
目標指標		実績	各年度目標			計画期間 最終目標
			令和8年度	令和9年度	令和10年度	
(1)	「他者との関わり（所属意識や連帯感等）」の向上が見られた児童生徒の割合	87.5% (令和6年度)	90%	90%	90%	令和10年度まで90%を維持
(2)	「個人のやり抜く力（粘り強さ）」の向上が見られた児童生徒の割合	88.2% (令和6年度)	90%	90%	90%	令和10年度まで90%を維持
(3)	「非認知能力」の調査において肯定的な変容が見られた児童生徒の割合	—	80%	80%	80%	令和10年度まで80%を維持

1-05 学習状況調査結果を基にした学力向上策の推進		【所管課】 教育研究所			【総振事業コード】—	
事業目的		「全国学力・学習状況調査」と「さいたま市学習状況調査」を軸とした確かな学力の向上に向けた PDCA サイクルを生かして、児童生徒の学力向上や望ましい生活習慣の確立を目指すために学習指導の充実を図ります。				
事業内容		<p>国や市の学習状況調査結果（データ）からわかる成果や課題を把握し、課題解決に向けた学習指導の充実が図られるよう、学校訪問や研修会を通して各学校の調査結果分析力を高めるとともに、各学校が自ら学力向上策を推進できるようにします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小1～中3において「さいたま市学習状況調査」を CBT で実施し、児童生徒の学習・生活状況を継続的・多面的に把握・分析します。</li> <li>・さいたま市学習状況調査の問題が児童生徒の学力を的確に捉えているかを専門機関と連携して検証し、教科に関わる内容の問題の質的改善に着手します。</li> <li>・教科に関わる内容だけではなく、読解力、実生活の場面や課題解決に必要な構想力・実践力を測るために、教科横断的な問題を導入します。</li> <li>・国や市の調査問題の趣旨を踏まえた授業アイデア例の伝達や学習指導の工夫改善に向けた指導・助言を行う「学力向上支援研修」を実施します。</li> <li>・各学校が学習状況調査結果（データ）の分析による指導改善を主体的に行うことができるよう、「生成 AI」を活用した分析ツールを開発します。</li> <li>・各学校の成果と課題を「学力向上ポートフォリオ（学校版）」に整理・反映することで、自ら効果的な学力向上策を立案・推進できるように支援します。</li> <li>・国や市の学習状況調査結果（データ）を詳細に分析し、学力と相関がみられる生活習慣等の把握を行い、学校・地域・保護者に発信するとともに、連携して望ましい生活習慣の確立を図ります。</li> </ul>				
目標指標		実績	各年度目標			計画期間 最終目標
			令和 8 年度	令和 9 年度	令和 10 年度	
(1)	自校の調査結果を分析し、学力向上策を立案するための伴走支援（「学力向上ポートフォリオ（学校版）」の作成支援及び指導）	100% （令和 7 年度）	100%	100%	100%	令和 10 年度まで 100%を維持
(2)	『「学力向上ポートフォリオ（学校版）」を学校全体で共有し、学力向上策に取り組んでいる』と肯定的に回答した学校の割合	95% （令和 7 年度）	95%	95%	95%	令和 10 年度まで 95%以上を維持

1-06 子ども読書活動推進事業		【所管課】 資料サービス課			【総振事業コード】—	
事業目的		生涯にわたり深い学びの支えとなる自主的な読書活動ができるように、読書が好きな子どもの割合を増やします。				
事業内容		<p>「さいたま市子ども読書活動推進計画」に基づき、家庭・地域・学校等と連携し、子どもの読書活動を推進します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館以外の子どもが関わるさまざまな施設で、アウトリーチサービスを実施します。</li> <li>・読書バリアフリーを推進し、多様な子どもが自分に合った読書を選択できるよう読書機会の提供やサービスの充実を図ります。</li> <li>・デジタル社会に対応した読書環境を整備するため、子ども向け電子書籍の充実を図り、PRを強化します。</li> <li>・子どもの意見を聴取する場を設けるとともに、学校等と連携し、子どもと図書館職員が本を通じて交流する機会を作ります。</li> <li>・学校図書館支援センターが核となり、「資源共有ネットワーク」による蔵書の共同利用を促進します。また、学校の読書活動、調べ学習活動を支援するとともに、学校図書館運営のサポートを行います。</li> </ul>				
目標指標		実績	各年度目標			計画期間 最終目標
			令和 8 年度	令和 9 年度	令和 10 年度	
(1)	アウトリーチ事業実施回数	169回 （令和 6 年度）	174回	177回	180回	令和 10 年度までに 180回
(2)	子ども向けイベントアンケートの満足度	—	90%	90%	90%	令和 10 年度まで 90%を維持

## 基本的方向性 2

### グローバル社会で活躍できる 豊かな人間性と健やかな体の育成

#### 施策展開

- コミュニケーションを通じて人間関係を築く力、豊かな情操や規範意識、ものごとを最後までやり抜く力、社会的・職業的自立に向けた能力・態度等を育成する。
- 生涯にわたってたくましく生きるために必要な健康や体力を育成する。

2-01 グローバル・スタディ及び国際教育の推進

2-02 誰一人取り残されない多様な支援の充実

2-03 特別支援教育の推進

2-04 子どもを支える生徒指導の推進

2-05 人権教育の推進

2-06 道徳教育の推進

2-07 義務教育9年間を見通したキャリア教育の推進

2-08 主体的に社会の形成に参画する児童生徒の育成

2-09 子どもによる科学的な視点を生かした体力向上の推進

2-10 学校・家庭・地域が連携した魅力ある食育の充実

2-01 グローバル・スタディ及び国際教育の推進		【所管課】 教育課程指導課 高校教育課			【総振事業コード】04-1-2-01	
事業目的	本市独自の英語教育「グローバル・スタディ」を通じて、将来、グローバル社会で主体的に行動し、たくましく豊かに生きる児童生徒を育成するとともに、国際的な視野を持ち、世界へ飛躍するグローバル人材の育成を目指します。					
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市立小・中・特別支援学校で実施している英語教育「グローバル・スタディ」におけるカリキュラムの検証・改善や指導体制の充実、体験活動の実施等を通じて、自分たちの文化や考えを自ら発信するほか、対話を通じて他者と協働し、より良く問題解決を図ることができる児童生徒を育成します。</li> <li>・市立中・高等・中等教育学校の参加を希望する生徒を海外の姉妹都市へ派遣する国際交流事業や、さいたま市模擬国連大会等を通して、グローバルな社会課題を解決しようとする態度や、多様性を受容し他者と協働する能力など、新たな未来をけん引し、国際社会の第一線で活躍するために必要な資質・能力をはぐむ教育を実践します。</li> </ul>					
目標指標		実績	各年度目標			計画期間 最終目標
			令和8年度	令和9年度	令和10年度	
(1)	「グローバル・スタディ」の勉強が好きだと回答する中学校3年生の割合	60.9% (令和7年度)	62%	62%	62%	令和10年度まで62%を維持
(2)	さいたま市模擬国連大会へ参加した市立中学・中等教育・高等学校の生徒数	60人 (令和7年度)	70人	70人	70人	令和10年度まで70人を維持

2-02 誰一人取り残されない多様な支援の充実		【所管課】 総合教育相談室			【総振事業コード】04-1-2-02	
事業目的	教員や専門職等が児童生徒一人ひとりの状況に寄り添って相談に乗り、福祉機関等と連携して支援を行う等、社会的包摂の視点から教育相談体制を整備し、推進します。また、不登校対策を強力に推進することにより、児童生徒一人ひとりの社会的自立を目指します。					
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、さわやか相談員を全ての市立学校へ配置・派遣し、学校におけるカウンセリング機能を充実させることにより、児童生徒や保護者の抱える悩みに寄り添った支援を行います。</li> <li>・教員やスクールソーシャルワーカーを対象に、複雑化、多様化する子どもの状況へ対応するための研修を実施することにより、支援の質の向上を図ります。</li> <li>・「子育て学習会」を開催することにより、不登校等で悩む保護者を支援します。</li> <li>・校内教育支援センター（Sola るーむ）や教育相談室・教育支援センターにおいて、児童生徒の学びの場と居場所を確保します。</li> <li>・不登校児童生徒に対し、オンライン支援を行うとともに、3Dプリンター、ドローン等の最先端技術を活用した体験的な学びを行います。</li> <li>・いづれど学園小学部・中学部を開校することで、特別な教育課程を編成し、習熟度や学年の枠を超えた新たな学びの場と居場所を確保します。</li> </ul>					
目標指標		実績	各年度目標			計画期間 最終目標
			令和8年度	令和9年度	令和10年度	
(1)	教員やスクールソーシャルワーカーを対象にした研修会参加者が研修の内容を理解した人の割合	93% (令和6年度)	95%	95%	95%	令和10年度まで95%を維持
(2)	保護者を対象とした子育て学習会等の実施回数	18回 (令和7年度)	21回	24回	27回	令和10年度に27回
(3)	Sola るーむや教育相談室・教育支援センターを利用する児童生徒のうち、「学びの場と居場所がある」と肯定的な回答をした児童生徒の割合	—	80%	85%	85%	令和10年度に85%

2-03 特別支援教育の推進		【所管課】 特別支援教育室	【総振事業コード】04-1-2-03			
事業目的	特別支援教育を必要とする児童生徒の個々のニーズに応じた、個別最適な学びの実現を図ります。					
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>埼玉県と連携し、市立特別支援学校を設置することにより、知的障害のある児童生徒の教育環境の充実を図ります。</li> <li>医療的ケア児の学校生活の支援及び保護者の負担軽減に向け、支援の充実を図ります。市立小・中・特別支援学校で学校生活において実施している看護師による医療的ケアを、特別支援学校においては、通学時にも看護師を派遣して医療的ケアを実施できるよう、支援を拡大します。</li> <li>特別支援教育研究ネットワークを活用し、各学校が指導事例作成及び共有することにより、特別支援教育担当教員の専門性を向上させます。</li> </ul>					
目標指標		実績	各年度目標			計画期間 最終目標
			令和8年度	令和9年度	令和10年度	
(1)	小・中学校において、医療的ケアが必要な児童生徒に看護師を派遣した割合	100% (令和6年度)	100%	100%	100%	令和10年度まで100%を維持
(2)	特別支援教育に係る研修会後の自己評価において、資質向上が図られた教員の割合	—	99%	99%	99%	令和10年度まで99%を維持

2-04 子どもを支える生徒指導の推進		【所管課】 生徒指導課	【総振事業コード】04-1-2-04			
事業目的	早期発見・早期支援といった課題対応の側面に加え、課題予防や児童生徒の発達を支える「発達支持的生徒指導」を強化することにより、児童生徒にとって安全・安心な学校づくりを目指します。					
事業内容	<p>教職員が、児童生徒の発する小さなサインを見逃すことなく、個々の状況に応じた迅速かつ適切な組織的対応を講じることができるよう、生徒指導を推進します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>指導主事等による研修を充実させることで、児童生徒が自発的・主体的に自らを発達させ、その発達過程を教職員が支える「発達支持的生徒指導」を推進し、いじめ防止につなげます。</li> <li>「さいたま市ストップいじめ！子どもサミット」の開催により、市を挙げて、子どもを主体とした、いじめ防止に向けた気運を高めます。</li> <li>「いじめ撲滅強化月間」の際に、低学年を含む全校児童生徒を対象としたいじめに係るアンケート調査を実施し、いじめの早期発見・早期対応につなげます。</li> <li>スクールロイヤー等による研修を実施し、教職員の法令上のいじめへの理解を促進するとともに、いじめに対する危機意識や対応力の向上を図ります。</li> <li>外部専門家の派遣等により、学校だけでは対応が困難な課題に適切に対応します。</li> </ul>					
目標指標		実績	各年度目標			計画期間 最終目標
			令和8年度	令和9年度	令和10年度	
(1)	児童生徒がいじめと主体的に向き合う意識を高めるためのスクールロイヤーによる特別講義を実施した学校の割合	33% (令和6年度)	43%	48%	53%	令和10年度に53%
(2)	スクールロイヤー等専門家チーム又は指導主事等による教職員研修を実施した学校の割合	65% (令和6年度)	75%	82%	88%	令和10年度に88%

2-05 人権教育の推進		【所管課】 人権教育推進室	【総振事業コード】04-1-2-05			
事業目的	同和問題をはじめとする様々な人権問題の解決に向け、人権意識の高揚を図り、人権の意義・内容や重要性について理解を深めます。					
事業内容	<p>個別の人権課題について理解を深めるとともに、多様性を認め合い、自他の人権を尊重する児童生徒を育成します。また、学びの機会を提供し市民の人権意識を高めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「人権の花運動」や「人権標語・人権作文」を実施します。</li> <li>・児童生徒を指導する教職員のキャリアに応じた人権教育研修会等を実施します。</li> <li>・人権教育集会所において、自治会や学校、福祉団体など多様な主体と連携した人権に関する主催事業を開催します。</li> </ul>					
目標指標		実績	各年度目標			計画期間 最終目標
			令和8年度	令和9年度	令和10年度	
(1)	人権教育研修の受講により人権尊重の理念と人権課題の実態を理解した教職員の割合	—	90%	90%	90%	令和10年度まで90%を維持
(2)	人権教育集会所における多様な主体と連携した主催事業の開催回数	6回 (令和6年度)	8回	9回	10回	令和10年度に10回

2-06 道徳教育の推進		【所管課】 教育課程指導課	【総振事業コード】—			
事業目的	各学校において、道徳科の学習を要として、学校の教育活動全体を通じて道徳教育を推進し、児童生徒の道徳性を養います。					
事業内容	<p>道徳科の学習が道徳教育の要としての役割を果たすことができるように具体的な指導を行います。また、各教育活動における道徳教育が、道徳教育推進教師を中心として意図的、計画的に進められるように具体的な指導を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師を対象とした指導訪問や授業研究会を通じて、デジタル学習基盤も効果的に活用した「考え、議論する道徳」の質的充実に向けた具体的な指導を行います。</li> <li>・道徳教育推進教師を対象とした研修会を通じて、道徳教育推進教師の役割や教育活動全体を通じて行う道徳教育、家庭や地域とも連携した道徳教育に関する具体的な指導を行います。</li> <li>・情報モラルに関する指導について、他者への共感や思いやり等について児童生徒が考えを深められるよう、情報モラルに関わる題材を生かして話し合いを深めたり、コンピュータによる疑似体験を授業の一部に取り入れたりするなど、具体的な指導を行います。</li> </ul>					
目標指標		実績	各年度目標			計画期間 最終目標
			令和8年度	令和9年度	令和10年度	
(1)	人が困っているときには、進んで助けてようという気持ちをもっている児童生徒の割合	93.7% (令和6年度)	90%	90%	90%	令和10年度まで90%を維持

2-07 義務教育9年間を見通したキャリア教育の推進		【所管課】 教育課程指導課 生涯学習振興課			【総振事業コード】04-1-2-06
事業目的	学校と社会をつなぐ体験的な活動及び社会をより良くするための提案活動等を実施することで、児童生徒一人ひとりの社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力の育成を目指します。				
事業内容	<p>次の事業を各学校の児童生徒の発達段階に合わせて計画し、義務教育9年間の中で順序立てて実施します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「夢工房 未来（みら）くる先生ふれ愛推進事業」を実施し、子どもたちの好奇心や感動する心を育成します。</li> <li>・児童生徒一人ひとりの職業観や勤労観をはぐくむ「未来（みら）くるワーク体験（中学生職場体験事業）」や様々な学校と社会をつなぐ体験的な活動とともに、地域と連携した社会をより良くするための提案活動を実施することで、課題対応能力やキャリアプランニング能力などの基礎的・汎用的能力を育成します。</li> <li>・地域と連携し、様々な分野の専門家を学校に招いた授業を実施するなど、社会の動向や変化を教室へ取り入れた教育を行うことで、よりよく生きていくことについて主体的に考え、行動する力を育成します。</li> <li>・児童生徒が、自らのキャリア形成を見通したり、振り返ったりして、自己評価を行うために「キャリア・パスポート」を活用し、主体的に学びに向かう力をはぐくみ、自己実現につなげます。</li> </ul>				
目標指標	実績	各年度目標			計画期間 最終目標
		令和8年度	令和9年度	令和10年度	
(1) 自分の夢や目標に向かって、生活や学習の仕方を工夫することができる生徒の割合	85.8% (令和7年度)	80%	80%	80%	令和10年度まで80%を維持
(2) 仕事をするのは人の役に立つことだと感じている生徒の割合	87.0% (令和7年度)	90%	90%	90%	令和10年度まで90%を維持

2-08 主体的に社会の形成に参画する児童生徒の育成		【所管課】 教育課程指導課 高校教育課			【総振事業コード】04-1-2-07
事業目的	社会の中で自立し、他者と連携・協働しながら、社会を生き抜く力や地域の課題解決を社会の構成員の一員として主体的に担うことができる力を児童生徒に育成します。				
事業内容	<p>社会を生き抜く力や地域の課題解決を社会の構成員の一員として主体的に担うことができる力をはぐくむため、次の事業を実施します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒にとって身近な社会である学級や学校の生活上の課題の解決に向けて話し合い、実践する自治的活動を行います。</li> <li>・社会の問題解決に関わる機関と連携し、模擬市議会、市議会の傍聴や動画の視聴、金融教育講座等の社会を考えさせる体験的な活動を実施します。</li> <li>・地域の特色を生かし、各学校においてSDGsの実現を目指した教育活動を実施することで、地域社会に対する興味・関心を高める学習を行います。</li> </ul>				
目標指標	実績	各年度目標			計画期間 最終目標
		令和8年度	令和9年度	令和10年度	
(1) 地域や社会をよくするために行動しようとしている生徒（中学校3年生）の割合	78.6% (令和7年度)	80%	80%	80%	令和10年度まで80%を維持
(2) 社会を考えさせる体験的な活動の事後アンケートにおける、肯定的な回答	—	80%	80%	80%	令和10年度まで80%を維持

2-09 子どもによる科学的な視点を生かした体力向上の推進		【所管課】 教育課程指導課			【総振事業コード】04-1-2-08	
事業目的	学校、家庭、地域、行政が連携のもと、子どもたちの体力・運動能力の向上を図る取組を通してよりよい運動習慣の形成を図り、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成します。					
事業内容	<p>「子どものための体力向上サポートプラン」を推進し、体育・保健体育科授業及び体育的活動の充実を図るとともに、「自分一人でも楽しくできる」をコンセプトに、室内外において短時間で手軽にできる運動を紹介する動画を作成するなど、運動やスポーツに親しむための環境を整備することで、児童生徒の体力・運動能力や運動習慣を向上・改善し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「自律的なフィジカルアクティビティ」を実現するため、児童生徒の運動経験の充実や、「シン・体カアップメニュー」等の活用による児童生徒の体力・運動能力の向上を図ります。また、実践的な研修会や各種実践事例集の充実による教員の授業力向上を図ります。</li> <li>・「個別最適なフィジカルアクティビティ」を実現するため、全国体力・運動能力、運動習慣等調査や新体力テストの結果を分析し、児童生徒個々の体力・運動能力等の重点目標の設定を行うほか、各校の体力課題に適した取組を進めます。</li> <li>・「探究的なフィジカルアクティビティ」を実現するため、授業においてデータ活用型の学習を行い、児童生徒が主体的に目標に向かって実践していく事業の推進を図ります。</li> </ul>					
目標指標		実績	各年度目標			計画期間 最終目標
			令和8年度	令和9年度	令和10年度	
(1)	卒業後、授業以外でも自主的に運動やスポーツをする時間をもちたい児童生徒の割合	85.0% (令和7年度)	85%	85%	85%	令和10年度まで85%を維持
(2)	「シン・体カアップメニュー」として格納している動画の数	50本 (令和7年度)	60本	70本	80本	令和10年度に80本

2-10 学校・家庭・地域が連携した魅力ある食育の充実		【所管課】 健康教育課			【総振事業コード】04-1-2-09	
事業目的	地域や家庭と連携しながら「生きた教材」である学校給食を活用した食育を推進し、児童生徒の望ましい食習慣を形成します。					
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地元シェフによる「シェフ給食」や市内産食材を学校給食に取り入れた「さいたま市民の日給食」、農業体験を行う「学校教育ファーム」を実施することにより、児童生徒の食への関心を高めます。</li> <li>・地域の方を招いた学校給食を通じて、児童生徒が食事のマナーや人と食事をすることの大切さを学ぶことにより、児童生徒の社会性を養います。</li> </ul>					
目標指標		実績	各年度目標			計画期間 最終目標
			令和8年度	令和9年度	令和10年度	
(1)	シェフ給食の実施	35校 ※市立小・中・中等教育・特別支援学校を対象 (令和6年度)	34校	33校	33校	令和10年度までの3年間で100校
(2)	シェフ給食により「食への関心が高まった」と回答した学校の割合	—	90%	90%	90%	令和10年度まで90%を維持
(3)	地域の方を招いた学校給食（児童と地域の方々との会食）（小学校）	全校実施 ※全校で年間3回以上実施 (令和6年度)	全校実施 ※全校で年間3回以上実施	全校実施 ※全校で年間3回以上実施	全校実施 ※全校で年間3回以上実施	令和10年度まで全校実施を維持

## 基本的方向性 3

### 人生100年時代を 輝き続ける力の育成

#### 施策展開

- 生きがいを持ち、生涯にわたって質の高い学びを続けられる環境を整備する。
- 人生を豊かに生きるために、学んだことを生かして活躍できる環境を整備する。

3-01 子どもと大人の多様な学びの推進

3-02 生涯にわたる学びを支援する図書館事業の推進

3-03 博物館・美術館・科学館の専門性を生かした学校との連携と特色のある生涯学習機会の充実

3-04 生涯学習人材バンクの推進

3-05 地域コミュニティを活かした学びのきっかけづくり

3-06 次世代に向けた歴史文化資源の保存・継承・活用

3-01 子どもと大人の多様な学びの推進		【所管課】 生涯学習総合センター	【総振事業コード】04-1-3-01			
事業目的	市民の学習要求に応えるため、多様な学びを提供し、市民の学びに伴走します。					
事業内容	<p>市民が学びの場にいつでも参加できるよう、多様な学びを提供し、生涯にわたって学び続けることができる環境を整備します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生涯学習施設等との連携や、専門性のある講師を招いた「さいたま市民大学」事業を実施することで、子どもから大人まで幅広い世代を対象に、高度で専門的かつ多様な学習要求に応える質の高い学びを提供します。</li> <li>多様な背景を持つ市民がいつでも学びの場に参加できるよう、デジタル化の推進に取り組みます。</li> <li>各公民館において、健康や暮らし、身近な問題などについて学びを深められる主催事業等を実施します。また、夏休み子ども公民館による体験学習や同年代間の交流機会等を提供します。</li> <li>地域の特色を生かした事業の実践・検証に取り組む公民館を「さいたま市モデル公民館」として指定し、地域住民と共に、地域の課題を住民主体で解決を図る取組を推進します。</li> </ul>					
目標指標		実績	各年度目標			計画期間 最終目標
			令和8年度	令和9年度	令和10年度	
(1)	講座内容が学びのニーズに合っていたと回答した割合	—	90%	90%	90%	令和10年度まで90%を維持
(2)	新たな発見や経験があったと回答した割合 (夏休み子ども公民館)	—	90%	90%	90%	令和10年度まで90%を維持

3-02 生涯にわたる学びを支援する図書館事業の推進		【所管課】 資料サービス課	【総振事業コード】04-1-3-02			
事業目的	市民が生涯にわたり学び続けるための知識インフラとして、多様な知的要求に応える資料を収集・整理・保存するとともに、様々な講座等を開催することにより、子どもから大人まで誰一人取り残されない質の高い生涯学習環境を整備します。					
事業内容	<p>「さいたま市図書館ビジョン（第2期）」に基づき、図書館の基本理念である「本と人 人と人が出会う『知のひろば』」を実現するため、市民が質の高い生涯学習に取り組むことのできる環境を整備します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>知的好奇心を喚起し、生活に役立つイベントや展示等を実施することで来館者を呼び込むとともに、図書館未利用者についてもデジタル化を進めることで、図書館利用者の裾野を広げます。</li> <li>市民の多様な要求に応える、幅広く計画的で課題解決に役立つ図書館資料の収集を行います。</li> <li>創造力や感性の豊かな子どもをはぐむため、子どもの心の成長に寄り添った読書活動を家庭や地域と連携し働きかけるとともに、学校教育との連携の中で子どもたちに身近なデジタルツールを活用しながら、読書の楽しさを伝える魅力的な子ども向け事業を展開してイベントへの参加者を増やし、図書館への来館を促すことで子ども読書活動を推進します。</li> </ul>					
目標指標		実績	各年度目標			計画期間 最終目標
			令和8年度	令和9年度	令和10年度	
(1)	来館者数	5,704,379人 (令和6年度)	590万人	593万人	596万人	令和10年度に596万人
(2)	図書館資料の充足度	74.5% (令和7年度)	75%	76%	77%	令和10年度に77%
(3)	子ども向け行事への参加者数	21,807人 (令和6年度)	22,000人	22,100人	22,200人	令和10年度に22,200人

3-03 博物館・美術館・科学館の専門性を生かした学校との連携と特色のある生涯学習機会の充実		【所管課】 博物館・うらわ美術館 ・青少年宇宙科学館			【総振事業コード】04-1-3-03	
事業目的	人生 100 年時代を輝き続けるために、市民が高度で質の高い生涯学習に取り組めるよう、各生涯学習関連施設において、特色ある学習環境を整備し、利活用を促進します。					
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民の知的好奇心を喚起する、専門的で魅力あふれる展覧会や講座等の実施により、多世代を対象とした多種多様な学びの機会を提供します。</li> <li>スクール・サポート・サイエンス事業（学校への出前授業）など、学校との連携により、児童生徒が歴史、伝統、文化、科学、美術等に直接触れることのできる体験的な学びの機会を提供します。</li> <li>通常の展覧会や講座への参加が困難な方も生涯学習に取り組めるよう、デジタル技術などを活用してより多くの方法で学びの機会を提供します。</li> </ul>					
目標指標		実績	各年度目標			計画期間 最終目標
			令和 8 年度	令和 9 年度	令和 10 年度	
(1)	博物館主催講座参加者の学習実感度	92% (令和 6 年度)	90%	90%	90%	令和 10 年度まで 90%を維持
(2)	美術館主催事業来場者の満足度	95% (令和 6 年度)	90%	90%	90%	令和 10 年度まで 90%を維持
(3)	スクール・サポート・サイエンス事業実施後の学習満足度	95% (令和 6 年度)	90%	90%	90%	令和 10 年度まで 90%を維持

3-04 生涯学習人材バンクの推進		【所管課】 生涯学習振興課			【総振事業コード】04-1-3-04	
事業目的	人生 100 年時代に向けて、誰一人として取り残されることなく生きがいを感じることでできる社会の実現に向けて、学習機会の拡充や学習成果の活用の仕組みを作り、生涯学習の振興と地域における豊かなつながりを創出します。					
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>誰一人取り残されない生涯学習の推進のためデジタル技術を活用した多様な学習機会の提供を行い、効果的に事業を推進します。</li> <li>生涯学習に関する専門的な知識や技能、経験等を有している方々を生涯学習人材バンクに登録し、学習したい方の希望に合わせて登録者を講師として紹介します。</li> <li>SNS や市ホームページを活用して、広く生涯学習人材バンク制度の周知を図ります。また、庁内各課への定期的な働きかけや主催イベント等での活用を通じて、生涯学習人材バンクの登録者が活躍する機会を積極的に創出します。</li> </ul>					
目標指標		実績	各年度目標			計画期間 最終目標
			令和 8 年度	令和 9 年度	令和 10 年度	
(1)	生涯学習人材バンク利用者の満足度	—	85%	87%	89%	令和 10 年度に 89%

3-05 地域コミュニティを活かした学びのきっかけづくり		【所管課】 生涯学習部、生涯学習総合センター、中央図書館			【総振事業コード】—	
事業目的	多様な主体との連携・協働により、多種多様な学びの場を市民に提供します。 豊かな人間性を培い、社会性やコミュニケーション能力の向上を図ることにより、青少年の主体的な社会参画を促進します。					
事業内容	市民の身近に存在する生涯学習関連施設を中心としたネットワークを構築し、多種多様な学びの場を市民に提供する「学びのネットワーク」を実施します。また、児童生徒等を対象に、「チャレンジ up さいたまバスポート」及び「チャレンジ up さいたま手帳」を発行し、体験活動を含めた学校外の学びの重要性、ボランティア活動の重要性について啓発します。 ・公民館や図書館、科学館、博物館や美術館等で、同じ時期に同じテーマで展示・講座等の事業を展開する「学びのネットワーク」を実施します。 ・市長部局や大学、NPO、企業、団体等とも連携・協働し、幅広い世代の市民の生涯にわたる学びのきっかけづくりをします。 ・市WEBサイトを活用し、体験活動・ボランティア活動に関する情報の提供を行うほか、市長部局や民間団体と連携し、児童生徒に多様な活動の機会を提供し、青少年の社会参画を促進します。 ・一定数の体験活動を行った児童生徒等に対して、特典を付与します。 ・一定時間ボランティア活動を行った児童生徒等に、「ボランティア活動賞」を授与します。					
目標指標		実績	各年度目標			計画期間 最終目標
			令和8年度	令和9年度	令和10年度	
(1)	「学びのネットワーク」参加者数	1,650人 (令和6年度)	前年度比 5%増	前年度比 5%増	前年度比 5%増	令和10年度までに令和6年度比16%増
(2)	「この1年間に、ボランティア活動に参加したことがありますか。」の質問に「参加したことがある」と回答した児童生徒(小4から中3)の割合	34.5% (令和6年度)	前年度比 3ポイント 増	前年度比 3ポイント 増	前年度比 3ポイント 増	令和10年度までに令和6年度比 12ポイント増

3-06 次世代に向けた歴史文化資源の保存・継承・活用		【所管課】 文化財保護課			【総振事業コード】08-1-3-01	
事業目的	市内各地に遺る歴史文化資源について、次世代においても、地域住民をはじめ幅広い市民に関心を持ってもらい、その文化財の価値・魅力を享受できるようにします。					
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の歴史文化資源の掘り起こしを進めるなど、さらなる歴史文化資源の把握・調査を行います。</li> <li>・歴史文化資源に関する情報を積極的に発信し、教育や観光、地域振興など様々な場面で活用を行います。</li> <li>・歴史文化資源所有者や管理者、保存団体や歴史文化をテーマに取り組む活動団体、地域住民(市民)や学校、観光団体や経済団体、大学や専門家などと連携し、地域縦ぐるみで歴史文化資源を保存・活用しながら、継承していく体制づくりを進めていきます。</li> <li>・クラウドファンディング型ふるさと納税などにより、民間支援者からの寄附金を積極的に募ります。また、さいたま市文化財保存活用基金について、文化財の保存・活用のために運用します。</li> </ul>					
目標指標		実績	各年度目標			計画期間 最終目標
			令和8年度	令和9年度	令和10年度	
(1)	さいたま市歴史文化資源について知っている人の割合	95.9% (令和6年度)	95%	95%	95%	令和10年度まで95%を維持
(2)	各区と連携した歴史文化資源を周知するためのイベント・講習会の開催地区数	—	2区	2区	2区	令和10年度までの3年間で6区
(3)	歴史文化資源に関連するイベント・講習会で満足・やや満足と回答した人の割合	—	80%	80%	80%	令和10年度まで80%を維持

## 基本的方向性 4

### スクール・コミュニティによる 連携・協働の充実

#### 施策展開

- 学校・家庭・地域・行政の連携・協働体制を構築し、地域の教育力の向上を図るとともに、地域に信頼される学校づくりを推進する。
- 地域の多様な教育資源を活用し、地域コミュニティの活性化と、地域発展の担い手となる人材を育成する。

4-01 コミュニティ・スクールとスクールサポートネットワークの一体的推進

4-02 チャレンジスクールの充実

4-03 子どもを見守る学校安全ネットワークの推進

4-01 コミュニティ・スクールとスクールサポートネットワークの一体的推進		【所管課】生涯学習振興課、 教育政策室、学校施設管理課			【総振事業コード】04-1-4-01	
事業目的	学校・家庭・地域・行政が連携・協働し、地域全体で未来を担う子どもたちをはぐくみます。					
事業内容	<p>学校・家庭・地域が目標やビジョンを共有し連携・協働するコミュニティ・スクールと、地域学校協働活動を実施する多様な人々のネットワークであるスクールサポートネットワークを一体的に推進することで、地域全体で子どもたちの成長を支えていく環境を整えるとともに、児童生徒の意見を反映させた学校運営協議会や協働活動の実現を目指します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニティ・スクールに係る研修会を実施します。</li> <li>・円滑な学校運営協議会の実施を支援します。</li> <li>・学校と地域の連絡・調整や多様な活動の企画・調整等を担う学校地域連携コーディネーターを配置します。</li> <li>・学校・家庭・地域の連携・協働を支援するため、好事例を紹介します。</li> <li>・スクール・コミュニティの形成を推進するために、地域住民が学校の特別教室を活用できる仕組みを整備します。</li> </ul>					
目標指標		実績	各年度目標			計画期間 最終目標
			令和8年度	令和9年度	令和10年度	
(1)	地域や社会をよくするために行動しようとしている児童生徒の割合	84.2% (令和7年度)	84%	84%	84%	令和10年度まで84%以上を維持
(2)	コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解が深まったと思う学校の割合	45.4% (令和7年度)	50%	55%	60%	令和10年度に60%

4-02 チャレンジスクールの充実		【所管課】 生涯学習振興課			【総振事業コード】04-1-4-02	
事業目的	幅広い層の地域住民、団体等の参画を得ることにより、地域社会の中で、子どもたちを心豊かで健やかにはぐくみます。					
事業内容	<p>土曜日や放課後等に学校の教室等を活用して、多くの地域の方々の参画を得て、子どもたちの自主的な学習やスポーツ、文化活動、地域住民との交流活動等の取組を実施します。土曜チャレンジスクールでは、子どもたちに学ぶ楽しさを教え、基礎学力の向上や学習習慣の定着を図るため、土曜日等に子どもたちの自主的な学習や体験活動等を実施します。また、放課後チャレンジスクールでは、子どもたちの社会性、自主性、創造性等の豊かな人間性をはぐくむため、放課後等に子どもたちのスポーツ、文化活動、地域住民との交流活動等を実施します。</p> <p>ボランティアスタッフに対しては、研修会を実施します。</p>					
目標指標		実績	各年度目標			計画期間 最終目標
			令和8年度	令和9年度	令和10年度	
(1)	チャレンジスクールに参加して学びや体験を得られたと思う児童生徒の割合	97.1% (令和6年度)	95%	95%	95%	令和10年度まで95%を維持

4-03 子どもを見守る学校安全ネットワークの推進		【所管課】 健康教育課			【総振事業コード】04-1-4-03	
事業目的	子どもに対する犯罪を防止・軽減し、通学区域の安全性を向上させます。					
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもを不審者による犯罪から守るために、PTAや地域の諸団体と連携しながら、「学校安全ネットワーク」を推進することにより、多くの人の目で児童生徒を見守る体制を構築します。</li> <li>「防犯ボランティア」「ながら見守りボランティア」「子どもひなん所110番の家」「子ども安全協定」を推進します。</li> </ul>					
目標指標		実績	各年度目標			計画期間 最終目標
			令和8年度	令和9年度	令和10年度	
(1)	「ながら見守り」ボランティアの新規登録者数	1,426人 (令和6年度) ※登録者数計 9,897人 (R7.4.1時点)	1,000人	1,000人	1,000人	令和10年度までの3年間で3,000人

## 基本的方向性 5

### 「未来を拓くさいたま教育」 推進のための基盤整備

#### 施策展開

- 新しい時代の教育に向けた学校の指導体制を構築する。
- 安全・安心で質の高い教育環境を整備するとともに、学校安全体制を推進する。

5-01 教職員の資質能力の向上

5-02 人づくり、人材確保の推進

5-03 将来にわたり生徒がスポーツ・文化芸術活動に継続して親しむことができる環境の整備

5-04 学校における働き方改革の推進

5-05 より良い教育の実現を目指す教育環境整備の推進

5-06 学校安全体制の充実

5-07 小学校・中学校への空調設備の新規整備・更新及び学校トイレの洋式化等の推進

5-08 学校用務業務等の民間力活用の推進

5-01 教職員の資質能力の向上		【所管課】 教育研究所	【総振事業コード】04-1-5-01			
事業目的	時代のニーズや多様化する教育課題に対応した組織的な学校運営を進めるため、教職員の育成を図ります。					
事業内容	<p>学校教育を取り巻く社会の変化を前向きに受け止め、主体的に学び続ける教職員の育成します。また、学校の状況や課題を適切に把握し、学校内外の関係者と協働を図りながら、学校の教育力を最大化していくことができる学校管理職を育成します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員研修においては「研修観の転換」をコンセプトに「研修目標」「研修内容」「研修過程・方法」を見直し、研修受講者の視点に立った研修会をデザインしていきます。</li> <li>・管理職の資質能力の向上においては、専門的示唆に富んだ外部有識者からの学びや参集研修と校内実践を繰り返す中で、アセスメント能力（収集・整理・分析し共有できる力）、ファンリテーション能力（学校の教育力を最大化していける力）など、学校管理職の総合的なマネジメント力の強化を図るための研修を構築していきます。</li> </ul>					
目標指標		実績	各年度目標			計画期間 最終目標
			令和8年度	令和9年度	令和10年度	
(1)	研修会後の自己評価において、資質向上が図られた教職員の割合	98.9% (令和6年度)	99%	99%	99%	令和10年度まで99%を維持
(2)	研修会後の自己評価において、「主体的に学ぶことができなかった」と回答した教職員へのフォローアップ実施率	—	100%	100%	100%	令和10年度まで100%を維持

5-02 人づくり、人材確保の推進		【所管課】 教職員人事課	【総振事業コード】—			
事業目的	学校教育における指導の在り方の質的变化や生徒指導上の諸問題に適切に対応するため、幅広い教養と高い専門性を備えた、教育への使命感と情熱をもつ、人間性豊かな人材確保を目指します。					
事業内容	<p>教員採用選考の実施方法を工夫・改善し、志願者数の増加を図り、幅広い教養と高い専門性を備えた、教育への使命感と情熱をもつ、人間性豊かな人材の確保を目指します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な経歴を有する志願者が、受験しやすいよう、多様な選考方法で、教員採用選考試験を実施します。</li> <li>・本市で教員になることのやりがいや魅力を、様々なツールを活用して発信します。</li> <li>・教職経験者の復職を促進するため、ティーチャー・リターン制度等を活用し、経験豊かな人材の確保を図ります。</li> </ul>					
目標指標		実績	各年度目標			計画期間 最終目標
			令和8年度	令和9年度	令和10年度	
(1)	市立学校教員採用選考試験の志願倍率	4.6倍 (令和7年度実施)	4.0倍以上 を維持	4.0倍以上 を維持	4.0倍以上 を維持	令和10年度まで4.0倍以上を維持

5-03 将来にわたり生徒がスポーツ・文化芸術活動に継続して親しむことができる環境の整備		【所管課】 教育課程指導課			【総振事業コード】04-1-5-02	
事業目的	休日に於いて、生徒が継続的にスポーツ・文化芸術活動に親しむことのできる環境を整えます。また、部活動指導員の配置により、教員の働き方改革と生徒の部活動の充実を図ります。					
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 休日の部活動地域展開に向けて、モデル校において休日の部活動を地域クラブ活動として実施し、成果と課題を検証します。</li> <li>・ 休日の部活動を地域クラブ活動として実施する体制を整備します。</li> <li>・ 部活動指導員を希望校に配置し、指導員単独での部活動指導及び大会、練習試合等の引率を行うとともに、部活動における実技指導を行います。</li> <li>・ 将来的な平日も含めた地域展開を見据え、「さいたま市地域スポーツ・文化クラブ活動体制整備研究協議会」やその下部組織である各ワーキンググループにおいて、方針や取組について検討を進めます。</li> </ul>					
目標指標		実績	各年度目標			計画期間 最終目標
			令和8年度	令和9年度	令和10年度	
(1)	部活動の地域展開を行った学校において、休日に自分のやりたいスポーツや文化芸術活動ができてきている生徒の割合	72.1% (令和7年度)	70%	70%	70%	令和10年度まで70%を維持

5-04 学校における働き方改革の推進		【所管課】 教職員人事課			【総振事業コード】—	
事業目的	全ての教職員が健康でやりがいを持ち、能力を最大限発揮して、いきいきと働くことができる持続可能な職場環境づくりを推進します。					
事業内容	<p>「業務量管理・健康確保措置実施計画」に基づき、様々な施策を実施することで、教職員が児童生徒への指導や教材研究等に注力できる職場環境づくりを推進します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事務負担軽減や業務効率化に向けて、各施策を推進し、その効果を検証していきます。</li> <li>・ ワークライフバランスや働きがいに資する施策を推進し、教職員の健康確保を図ります。</li> </ul>					
目標指標		実績	各年度目標			計画期間 最終目標
			令和8年度	令和9年度	令和10年度	
(1)	業務負担軽減や事務の効率化が図られていると思う職員の割合	【参考】学校の業務改善の取組が負担軽減につながっていると感じている職員の割合 令和7年度 71.3%	73%	76%	79%	令和10年度までに79%
(2)	ストレスチェック集団分析における総合健康リスクが100以下である学校の割合	89%	90%	94%	97%	令和10年度までに97%

5-05 より良い教育の実現を目指す教育環境整備の推進		【所管課】 教育政策室、学事課、学校施設整備課、学校施設管理課、教育課程指導課、教職員人事課、 おいしい給食サポート課、 武蔵浦和駅周辺地区義務教育学校開校準備室			【総振事業コード】04-1-5-04
事業目的	学校規模による課題の解消とともに本市の教育の質の向上を図ります。				
事業内容	<p>単なる学習の場ではなく、学びと生活の共同体として、児童生徒に社会の形成者としての資質・能力（協働性・社会性等）を育成するため、持続的で魅力ある教育活動を実現できる教育環境整備を推進します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校施設の老朽化対策やバリアフリー化の推進及び避難所機能の強化等に加え、更なる脱炭素化にも十分配慮した改修・建て替えを実施します。</li> <li>義務教育学校を始めとした新設校の設置や通学区域の調整等、良好な教育環境の整備に向けた取組を推進します。</li> <li>武蔵浦和駅周辺地区における学校規模による課題の解消と、「さいたま市小・中一貫教育」の更なる推進を図るため、義務教育学校を建設します。また、開校準備委員会において、学識経験者の指導・助言を踏まえ、学校・家庭・地域・行政が連携・協働して具体的な教育活動等を検討します。</li> <li>屋内温水化した学校プールで周辺の学校の水泳授業を実施し、また水泳授業を民間に委託するなど、屋内温水プールで水泳授業を行う学校を拡大することで、水泳学習の質の向上を図るとともに、持続可能な形での教育環境の充実を図ります。</li> </ul>				
目標指標	実績	各年度目標			計画期間 最終目標
		令和8年度	令和9年度	令和10年度	
(1) 武蔵浦和駅周辺地区義務教育学校の整備	実施設計 (令和6年度)	新設沼影校舎 の建設工事	新設沼影校舎 の建設工事	新設沼影校舎 の建設工事	令和10年度に新設沼影校舎の建設工事 継続
(2) 屋内温水化した学校プールの周辺校との共用	大和田小学校プールの共用校 検討 (令和6年度)	大和田小学校 プールの共用 開始	大和田小学校 プールの共用 継続	大和田小学校 プールの共用 継続	令和10年度に大和田小学校プールの共 用継続

5-06 学校安全体制の充実		【所管課】 健康教育課 学事課			【総振事業コード】04-1-5-05
事業目的	危機管理マニュアルに基づき、防災教育や交通安全対策を推進し、児童生徒の災害や交通事故等による被害を防止・軽減します。				
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>危機管理マニュアルや防災教育カリキュラムに基づいた実践的な防災教育、地震発生を想定し安全を確保する行動をとる「シェイクアウト訓練」を推進することにより、地域防災の重要な担い手となり得る児童生徒を育成します。</li> <li>学校、保護者と連携し、通学路の安全点検を実施し、改善が必要な箇所は、道路所管等関係機関が交通安全対策を講じることにより、安全な通学路を整備します。</li> <li>全ての市立小・中・高等・中等教育学校で「自転車運転免許制度」を実施することにより、児童生徒の交通安全に対する理解を深めます。</li> <li>「ASUKAモデル」に基づいた傷病者発生時対応訓練を全ての市立学校で実施することにより、学校安全管理体制の充実を図ります。</li> </ul>				
目標指標	実績	各年度目標			計画期間 最終目標
		令和8年度	令和9年度	令和10年度	
(1) 避難所運営訓練に生徒が参加した校数	36校 (令和6年度)	40校	42校	45校	令和10年度に45校
(2) 市立学校における管理下内の交通事故件数（小・中・高等・中等教育・特別支援学校）	50件 (令和6年度)	47件	46件	44件	令和10年度に44件

5-07 小学校・中学校への空調設備の新規整備・更新及び学校トイレの洋式化等の推進		【所管課】 学校施設整備課 学校施設管理課 おいしい給食サポート課			【総振事業コード】04-1-5-03	
事業目的	市立学校の良好な教育環境の確保のため、小学校・中学校への空調設備の新規整備・更新及び学校トイレの洋式化等を推進します。					
事業内容	<p>市立小学校体育館への空調設備整備の推進、市立小学校・中学校の教室等の空調設備の新規整備・更新及びトイレ洋式化等を推進します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校体育館は、児童生徒の学習・生活の重要な場である一方で、災害発生時には地域住民の避難所としての役割も担うことから、空調設備が整備されていない小学校体育館への新規整備を進めます。令和8年度から令和10年度までは、国の学校施設環境改善交付金を活用して毎年各区1校ずつ新規整備を行います。</li> <li>その他の小学校の体育館、小学校の特別教室及び小学校・中学校の給食室への新規整備や、小学校・中学校の普通教室等の老朽化した空調設備の更新について、手法の検討を進めます。</li> <li>市立学校トイレの洋式化に向け改修工事等を実施します。</li> </ul>					
目標指標		実績	各年度目標			計画期間 最終目標
			令和8年度	令和9年度	令和10年度	
(1)	市立小学校体育館への空調設備の整備	PFI等導入可能性調査に基づく整備方針の検討 (令和6年度)	10校	10校	10校	令和10年度までの3年間で30校
(2)	市立小・中学校の校舎内児童生徒用トイレの洋式化率	88.3% (令和6年度)	94%	97%	100%	令和10年度に100%
(3)	市立学校の校舎内トイレ(小・中学校児童生徒用を除く)、体育館等トイレの洋式化率	80.1% (令和6年度)	84%	92%	100%	令和10年度に100%

5-08 学校用務業務等の民間力活用の推進		【所管課】 教育総務課 おいしい給食サポート課			【総振事業コード】52-2-1-10	
事業目的	民間力活用を推進し、効果的・効率的な管理運営を実現します。					
事業内容	<p>市立学校の用務業務及び給食調理業務の民間力活用を推進します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>計画的に委託化等を実施します。</li> <li>委託化等に向けた予算要求、入札及び契約を行います。</li> </ul>					
目標指標		実績	各年度目標			計画期間 最終目標
			令和8年度	令和9年度	令和10年度	
(1)	市立学校用務業務・給食調理業務の民間力活用による人員効果	7人 (令和6年度)	2人	2人	1人	令和10年度までの3年間で5人

## 6 資料

### アクションプランにおける重点事項

「第2期さいたま市教育振興基本計画」の「さいたま市教育ビジョン」（平成31年3月策定）では、人生100年時代の到来を見据え、市民一人ひとりが生きがいを持ち、自らの能力を高め発揮しながら、豊かに生き、自分らしい輝きを放ち続ける姿が、本市の教育が目指す人間像「世界と向き合い 未来の創り手として 輝き続ける人」の姿であると示しました。

そこで、「さいたま市教育アクションプラン」では、本市の教育が目指す人間像の実現に向け、これまで本市が取り組んできた様々な教育施策をさらに磨き、市民一人ひとりが、自己実現を図っていくうえで推進力となる、「PLAN THE NEXT 3つのGで 日本一の教育都市へ」という考えを掲げ、22世紀を見据えた教育施策を展開することとしました。また、持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向け、事業・取組ごとに特に関連の深いと思われるSDGsを明記することで、常にSDGsの視点を十分に意識しつつ、各種施策を推進していきます。

「未来を拓くさいたま教育」を推進する「PLAN THE NEXT 3つのGで日本一の教育都市へ」

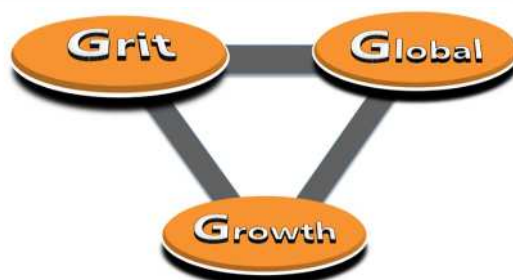
第一のGは、Grit（グリット）「やり抜く力で『真の学力』を育成すること」です。やり抜く力とは、目的を達成するために継続的に粘り強く努力し、ものごとを最後までやり遂げる思考態度のことです。




「確かな学力」が、基礎的・基本的な知識・技能、知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等、学習意欲であるのに対し、「真の学力」とは、知識・技能や思考力・判断力・表現力等の「認知能力」と、学びに向かう力やものごとをやり抜く力、自制心等の学びの下支えとなる「非認知能力」を合わせた学力のことです。

第二のGは、Global（グローバル）「『国際社会で活躍できる力』を育成すること」です。「国際社会で活躍できる力」とは、多様性を理解し、世界を舞台に挑戦する主体性と創造性、豊かな人間性を持ち、言語や文化で異なる人と外国語で意見を述べたり、交流したりするのに必要な思考態度のことです。

第三のGは、Growth（グロウス）「一人ひとりの成長を支え、『生涯学び続ける力』を育成すること」です。「生涯学び続ける力」とは、生涯にわたって、計画し、探求し、行動し、そして、振り返るといった連続性のある主体的・創造的な学びを通して、自己の能力を高め、成長につなげる思考態度のことです。

これら、3つのGを実現するためのポイントを次に掲げます。



 <b>Grit</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校の教育活動を通して、子どもたちの学びの下支えとなる、前向きに挑戦しやり抜く力や自制心、責任感、規範意識、社会性、自己肯定感・自己有用感、豊かな情操、他者への思いやり等を養っていく。</li> <li>子どもたちが、生涯にわたって質の高い学びを重ね、自分の頭で考え抜いて「新しい価値」を生み出す知的にタフな人間として成長を遂げるため、知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体的に学習に取り組む態度等をはぐくむ、質の高い教育を展開していく。</li> </ul>
 <b>Global</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全ての教育活動を通して、よりよい世界を構築するため、多様性を受け入れ、世界を舞台に挑戦する主体性と創造性、豊かな人間性を養うとともに、言語や文化で異なる人と外国語で意見を述べたり、交流したりする力を育成していく。</li> <li>全ての教育活動を通して、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を理解し尊重する態度や国際社会の平和と発展に寄与する態度、豊かな語学力・コミュニケーション能力、主体性・積極性、異文化理解の精神等を身に付けて、グローバル社会の様々な分野において活躍できる力を育成していく。</li> </ul>
 <b>Growth</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもから大人まで全ての人が、自らの能力を高め、発揮しながら自己実現を図っていくことができるよう、「学び」と「活動」が循環する、学校教育、生涯学習を力強く推進する。</li> <li>本市の強みである、学校・家庭・地域・行政による連携・協働体制をさらに強め、地域の教育力を一層高めていく。</li> </ul>

持続可能な開発目標（SDGs）

SDGs（Sustainable Development Goals：持続可能な開発目標）は、「誰一人取り残さない（leave no one behind）」持続可能でよりよい社会の実現を目指す世界共通の目標です。2030年を達成年限とし、17のゴールと169のターゲットから構成されています。

アクションプランでは、事業・取組ごとに特に関連の深いと思われるSDGsを明記することで、達成に向けて貢献していくゴールを可視化しています。常にSDGsを意識することで、各事業・取組とその他の事業・取組との関連性、相乗効果や波及効果等を考慮しつつ、全ての事業・取組を推進していきます。

◆持続可能な世界を実現するための17のゴール





第2期さいたま市教育振興基本計画  
〈さいたま市教育アクションプラン〉  
令和8年度～令和10年度

令和8年3月

編集・発行 さいたま市教育委員会

〒330-9588 さいたま市浦和区常盤6-4-4

電話：048-829-1626 FAX：048-829-1989

（管理部教育政策室 直通）